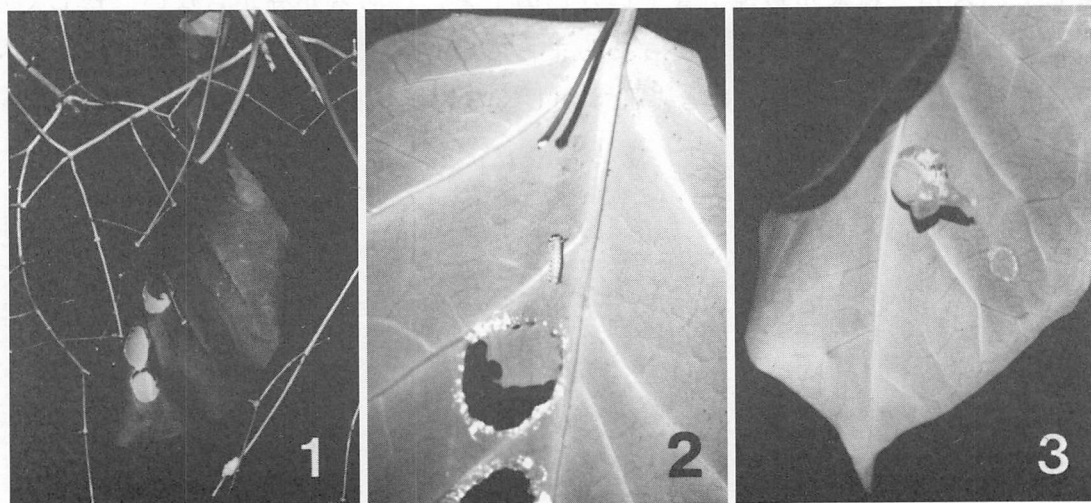


アサギマダラの越冬幼虫の確認例

永幡 嘉之

アサギマダラ *Parantica sita* は、成虫が長距離の移動をすることでよく知られており、兵庫県でも夏に観察される成虫の多くは南方から飛来した個体ではないかといわれている。しかし、播磨地方で越冬する個体があることは古くから知られており^{1) 2)}、最近では岡山県や島根県でも幼虫または蛹での越冬が確認されている^{3) 4) 5)}。

1995年3月、鳥取市の小林一彦・井上喜美子両氏の御案内により、佐用郡上月町櫛田の飛龍ノ滝を訪れる機会があった。クリハラン、チトセカズラ、ミヤコアオイなどと共にキジョランの小規模な群落がみられ、その葉にはアサギマダラの円形の食痕が目立ったので探索したところ、葉裏から4幼虫と1蛹殻を見出すことができた。幼虫はすべて若齢で、1頭が他の3頭に比べてやや大きかったものの、いずれも10mmに満たなかった。蛹殻は、時期から考えて前年の秋のものであると思われた。キジョランの葉はすべて寒さのためか筒状に丸まっており、幼虫はその中に潜むような格好になっていた。



1. キジョランの葉にみられる円形の食痕； 2. 葉の裏面に静止する幼虫；
3. 葉裏から見出された蛹殻

この近辺での越冬の記録としては、南光町船越がある²⁾。飛龍ノ滝にキジョランが生育することは古くから有名だったようだが⁶⁾、手持ちの文献では当地でのアサギマダラの越冬の記録は見出せなかった。

御案内いただいた両氏に厚く御礼申し上げる。また、写真はすべて小林一彦氏の撮影によるものであり、文献の入手にあたっては小林氏と松井正人氏にお世話になった。

観察記録

兵庫県佐用郡上月町櫛田， 4 幼虫 1 蛹殻， 8-Ⅲ-1995

参考文献

- 1) 三木順一(1979) キジョランとアサギマダラ， てんとうむし5:17.
- 2) 広畑政己(1984) 南光町船越でアサギマダラの越冬幼虫を確認， ひろおび7:47.
- 3) 衣笠弘直(1994) アサギマダラの幼虫， 今年も山陰で越冬？，
アサギマダラ情報164:897-900.
- 4) 衣笠弘直(1994) 雪の中で寒さに耐えるアサギマダラの幼虫，
アサギマダラ情報165:912-913.
- 5) 河辺誠一郎(1991) 岡山県中部(加茂川町)におけるアサギマダラ産卵と越冬の記録， すずむし126:1-6.
- 6) 岩谷成彦(1981) 飛龍ノ滝 播磨の植物(兵庫県生物学会編):26-29,
神戸新聞出版センター， 神戸.